

デザインマネジメント概論 第三回 [渡邊英徳](#)

[先週の内容](#)を受けて、他の事例を紹介。

1) [「木曜洋画劇場予告編」](#)

テレビ東京放映の「木曜洋画劇場」の予告編を編集してまとめ、ニコニコ動画にアップしたもの。以下の三層の時空間で構成されている。

- 遠過去・・・もともとの映画。
- 近過去・・・TVで流れた予告編。テレビ東京による再編集。
- 現在・・・ニコニコ動画のコメントで、笑いを擬似同期的に共有して楽しむ。

このプロセスとコンテンツデザインにより、元の映画の趣旨とは異質な楽しみ方が生まれた。

2) [「フリーザ様が捕鯨国にお怒りのようです」](#)

捕鯨をテーマにした「美味しんぼ」の音声と「ドラゴンボール」の映像のMAD。過激な捕鯨妨害活動をおこなう「シー・シェパード」がクローズアップされた時期に制作された。そもそもは国内限定のニコニコ動画で人気を呼んだもの。それを、有志が英訳してYouTubeにアップロード。

フリーザとピッコロという身近なキャラクターに代弁させることによって、シビアな内容でも、笑いと親しみを添えて伝えることができる。しかし、海外からのアクセスは（View数をみるかぎり）少ない。メッセージが“日本の国益”に与するものだったからかもしれない。

■今日のメインテーマ「事実を伝える(マス)メディア」

素材となる情報を収集、編集し、メディアをデザインして人々に伝える...記者、編集者のしごと。

1) [東北地方太平洋沖地震のデマ情報まとめ](#) (最終更新日:2011/3/25 09:40)

情報の信頼性、確実性・・・どこが発信しているのか、誰が発信しているのか。果たして真実なのか。震災後は、これまで漠然と信頼していた「(マス)メディア」の信頼が揺らいだ。

「とても不安なのだが○○が大丈夫だと言っているから、大丈夫」という感じで、ユーザ自身が真偽を判断する際に“不安を解消する方向”にバイアスが掛ることがある。逆に、ユーザ自身の不安を助長する情報は「不安を煽るな！」と、攻撃対象になることもある。もちろん、これらの逆のパターンもある。

渡邊が震災後「[ツイートマッピング](#)」で、地震に関する位置情報ツイートを収集してマッピングしたところ「いま避難所にいます、物資が足りません」と書いたツイート主が都内に居たりした。位置情報は詐称でき、エラーもあるので真偽は分からないが、ユーザが判断するための一要素にはなりうる。

その他、AERAの「放射能が来る」という表紙についてのTogetterまとめも参照すると、震災直後、一年経過した後、でずいぶん「放射能(放射性物質)」に対する世論、イメージが変わっているということがわかる。どちらも、まとめ主の志向が反映されていることに留意しながら閲覧すること。

- [震災直後のTogetterまとめ](#)
- [一年経過したのちのTogetterまとめ](#)

2) [Twitterの発言を捏造されて2ちゃんねるで炎上した件について](#)

リンク先より引用:

簡単に流れを整理しておく、僕のツイートを誰かが捏造@ahirutyan氏がスレ立てfacebookなどのアカウントや写真がスレで晒される、幾つかのまとめブログに載るツイートが捏造である事を証言、その他状況証拠が揃う捏造確定としてスレ沈静化、という感じです。

きっかけとなったツイートを以下に示す。上記リンク先のかたがツイートしたものではない。

pixiv元社員がアフィリエイトブログを管理してたとかで騒いでるけど、それなら自分自身で儲けられるコンテンツを作ればいいじゃん。今の2ちゃんねる見てると負け犬の遠吠えって感じ。

匿名掲示板において、個人が起こした悪事(およびそれをソーシャルメディアで暴露したこと)をもとにして、多数のユーザが攻撃するという事例がみられる。しかし、今回取り上げた例のように「それは事実ではない」ということを明確な証拠をもって示すと、自然に鎮静化することもある。

3) [アポロ計画捏造説](#)

月面で撮影された写真の「空気がない場所ではためく旗」や「複数の光源で照らされているように見える宇宙飛行士」をもとに「アポロ計画は捏造で、写真はスタジオで撮影されたものだ」という説を唱えるひとがいる。

[専門家の解説](#)

旗が揺れているように見えるのは、宇宙飛行士の手で月面に立てられたときの動きが、慣性の法則によって持続しているだけだ。

[専門家の解説2](#)

月面での光源は、太陽からの光のほか、いくつもあった。地球からの反射光もあれば、着陸船や宇宙服、月面に反射する光もある。また、月面が平らではない点にも留意しなければならない。物体を傾斜面に置くと、水平面に置く場合とは異なる方向に影が伸びるからだ。

このように、順を追って説明する必要がある「事実」は、ときにわかりづらい。ひとことで言える「事実でないこと」は誰にでもわかりやすいという強みを備えている。

4) [ナガサキ・アーカイブ](#)のTV報道(長崎放送、TBS)

どちらも10分弱のニュース番組だが、ローカル局、民放キー局のスタンスの違いがあらわれている。

長崎放送「報道センターNBC」(2010年8月6日放送)

デジタルアーカイブ「Nagasaki Archive」を主役に据え「長崎出身の若者と東京の大学生たちが」制作した、という説明。鳥巢さん、渡邊、学生たち、被爆者のかたへのインタビュー、アーカイブの制作風景とコンテンツの説明、地元の高校生たちの感想、を淡々と追う。ドキュメンタリーとして、事実を順序立てて説明する番組。アーカイブの制作者サイドから閲覧すると、ほぼ事実通りであり、違和感はない。

→被爆地・長崎における、広島原爆忌のニュースであり、夕方枠の放送であることを踏まえたづくり。つまり、番組をみる人々はすべて長崎の人、原爆や平和に対する思い入れが強い人々であるからこそ、このコンテンツデザインが妥当といえる。(なお、講義では紹介しなかったが、この番組を制作した関口記者は、長崎原爆を追い続けた記者として有名なかた。下記NEWS 23Xにも出演。)

TBS「NEWS23 X」(2010年8月9日放送)

被爆写真を収集し、若者たちに語り伝えてきた深堀好敏さんが主役。ご本人が老齢となり、どう記憶をつなぐのか、という悩みをお持ちである。番組内では、鳥巢さんと渡邊がアーカイブを制作しており、協力を求めて深堀さんを訪れた・・・というストーリーになっていた。学生はほとんど取り上げられない。このストーリーは「嘘ではない」が、当事者としては違和感が残る。さらに、生出演時に「渡邊先生は東京のご出身」とされたが、渡邊は大分出身である。単純に「東京在住」の間違いかも知れないが、長崎の被爆者×被爆三世×東京の研究者という構図が好ましかったのかも知れない。

→長崎原爆の日、全国ネットの花形ニュース番組であることをふまえたづくり。デジタルコンテンツではなく、人間のドラマを主役に据えている。脚色、演出になるかならないかギリギリの編集が加えられている。違和感はあるが、そもそも我々が持っていた「原爆の記憶を継承したい」というメッセージは強く打ち出されている。この点においては納得している。

■本日の講義内容を踏まえたレポート課題

連休明けの最初の講義開始時間までに提出

<http://goo.gl/htH7N>

東日本大震災に関する「あなた自身、あるいは身の回りの人々の経験」を”Webコンテンツ”で伝えようとするとき、あなたは文章・映像などの素材に対して、どのような切り口を据え、どのような編集を加えてコンテンツをデザインするか。考えを述べてください。“Webコンテンツ”には、ウェブサイト、映像(YouTube等)、スマートフォンアプリなどを含みます。これ以外の手段を挙げても構いません。

<http://labo.wtnv.jp/>
Twitter: [@hwtvn](#)
hwtvn@sd.tmu.ac.jp

